

## チャワントケ属の日本産一新知見種

大谷吉雄\*・大森雄治\*\*

A cup fungus, *Peziza praetervisa* BRES.,  
newly collected in Japan

Yoshio OTANI\* and Yuji OMORI\*\*

The first record of *Peziza praetervisa* BRES. is reported from Japan. Description and drawings are given on the basis of a collection from the Mabori Botanical Garden, Yokosuka City Museum.

筆者の一人大森は1984年5月下旬横須賀市自然博物館付属馬堀自然教育園内で美しいふじ色の一種のチャワントケを採集した。その発生場所は同教育園事務所から尾根に至る観察路わき、排水溝に沿った湿った土壤上で、シイ、カシ常緑樹林下である。この菌は同年6月中旬近くまで約半月間に亘って発生が観察された。この間筆者らはこの菌を精査してこれが現在まで日本から未報告の一新知見種であることを知ったのでここに報告する。

### 観察所見 (第1図及び第2図参照)

肉眼的性質：子囊盤は始め碗形で、径0.5~0.8cm、間もなく皿状に広がり、径1.0~2.5cmとなる。その周縁は内側に屈曲して通常円形、しばしば多数群生して不規則形となる。子実層は美しいふじ色だが次第に褐色を帯び、ついには赤褐色~茶褐色となる。碗の外表面は幾分粉状を呈し、子実層面と同色、ただしより淡色である。無柄、裏面の中央付近で土壤に固着する。子囊盤の肉の厚さは中央付近で約1mm、幾分すみれ色を帯びる。肉質で脆い。

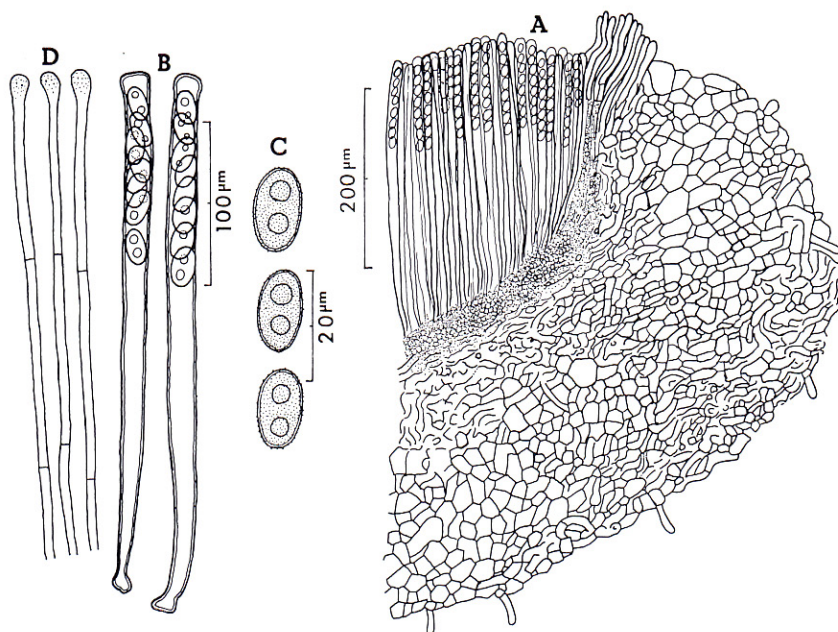
顕微鏡的性質：子実層托(excipulum)は3層をなす菌組織から成り、最外層は多角形の細胞から成る「多角菌組織(textura angularis)」でその厚さは250~280 $\mu$ m、細胞の大きさは20~55 $\times$ 20~47 $\mu$ m、表面の少数の細胞からは無色で、平滑、無隔膜の短毛を生ずる。その大きさは15~17.5 $\times$ 4~5 $\mu$ m、この層の内側には糸状の菌糸が密に絡み合った「絡み合い菌組織(textura intricata)」層があって、その厚さは150~200 $\mu$ m、その構成菌糸は径5~7.5 $\mu$ mである。最内層は再び多角菌組織で、その厚さは100~150 $\mu$ m、細胞の大きさは20~45 $\times$ 15~30 $\mu$ mである。ただし碗の縁付近では内側の多角菌組織を欠き、また菌組織の配列は多少不規則となる。子実層の厚さは子実下層を含め370~400 $\mu$ m、子実下層は泡沫状で構造は不明瞭である。子囊は円筒形、先端は截頭形あるいは丸みを帯び、下部は細まり、末端はこぶ状の脚となる。壁は一樣に薄膜で、先端に生ずるふた

\* 横浜市港北区太尾町 946-1 大倉山ハイム 1-707 c/o Yokosuka City Museum, Yokosuka 238.

\*\* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka, 238.  
原稿受理 1986年9月30日、横須賀市博物館業績第343号。



第1図 フジイロチャワンタケ (*Peziza praetervisae* BRES.) 発生の状態



第2図 フジイロチャワンタケ (*Peziza praetervisae* BRES.), A: 子囊盤縁付近の断面, B: 子囊, C: 子囊胞子, D: 側糸

(operculum) によって開口する。その幅  $15\sim 17.5\ \mu\text{m}$ 、脚付近では  $7\sim 7.5\ \mu\text{m}$ 、長さは  $250\sim 300\ \mu\text{m}$ 、上部はメルツァ試薬 (melzer's reagent) で青色となる。8ヶの子囊胞子を生ずる。子囊胞子は楕円形、 $12\sim 17.5\times 8\sim 10\ \mu\text{m}$ 、2ヶの油球を蔵し、外面にはいぼ状突起を密に生ずる。側糸は糸状で、隔膜を有し、上部は膨んで径約  $7.5\ \mu\text{m}$ 、紫褐色の顆粒を含む。

#### 種の同定

子囊盤が肉質で、脆く、子囊壁は一様に薄くて、ふた (operculum) によって開口、そ

の上部はメルツァ試薬によって青色となるなどの諸性質から本菌は *Peziza* 属 (チャワンタケ属) の菌であり、子嚢盤の大きさ、色、及び子嚢胞子が密にいぼ状突起をつけている等の諸性質に鑑み、*Peziza praetervisa* BRES. にはほぼ合致する。ただこの種類の従来の記載によれば子嚢胞子の大きさが  $11\sim 14(15)\times 6\sim 8\ \mu\text{m}$  となっており、ここに報告した菌のそれよりやや小さい。しかしその差は僅少なので本菌を *Peziza praetervisa* BRES. と同定することとした。

この種類はフランス、イギリス、ノールウェなどヨーロッパ諸国に分布しており、しばしば焚き火跡などに発生すると報告されているが、必ずしも焼跡に限定されないようである。従来日本からはこの種類採集の正式な記録がないのでここに「フジイロチャワンタケ」の和名を付し、日本産新知見の一種として報告する。

*Peziza praetervisa* BRES., Malpigia 11: 266, 1897—DENNIS, Brit. Ascom. p. 21, pl. IVc, 1968: ibid. rev. ed. p. 21, pl. VIc, 1978—ECKBLAD, Nytt. Mag. Bot. 15: 73, figs. 33a, b, 1968—BREITENBACH and KRÄNZELIN, Pilze d. Schw. Bd. 1, p. 76, fig. 47, 1981.

Syn. *Galactinia praetervisa* (BRES.) BOUD., Icon. Myc. II, pl. 292, 1905; Discom. d'Eur. p. 48, 1907—LE GAL, Rev. d. Myc. suppl. 6: 73, 1941.

Specimen examined: on the wetted soil under ever-green Forest (*Castanopsis-Quercus*), The Mabori Botanical Garden, Yokosuka City Museum, May 24, 1984 leg. Y. OMORI (YCM-F-471); June 1, 1984 leg. Y. OMORI and Y. OTANI (YCM-F-472).

#### 引用文献

- BREITENBACH, J. and KRÄNZELIN, F. 1981. *Pilze der Schweiz* Bd. 1, Ascomycetes 313 pp. Mykologia, Luzern.
- DENNIS, R. W. G. 1978. *British Ascomycetes* 486 pp. Cramer, Lehre.
- ECKBLAD, F.-E. 1968. The Genera of the operculate Discomycetes. A re-evaluation of the taxonomy, phylogeny and nomenclature. *Nytt Mag. Bot.* 15: 1-191.
- LE GAL, M. 1941. Les *Aleuria* et les *Galactinia*. *Rev. Mycol., Suppl.* 6: 56-82.

